指定管理者の評価に係る合議の概要

施設名	止々呂美ふるさと自然館（本館・野外活動緑地）
指定管理者名	株式会社スノーピーク
開催日	平成３０年（２０１８年）１０月３日（水）
開催場所	止々呂美ふるさと自然館本館（体験学習室）
合議の出席者	アウトドアデイジャパン　実行委員長　沖田　雅生　氏 キャンプ雑誌編集　フリーライター　鈴木　アキラ　氏 青少年教学の森野外活動センター　所長　篠坂　賢治　氏 施設利用者　堂浜　俊雄　氏

【概要】別添のとおり

内容	平成３０年１０月３日（水）に止々呂美ふるさと自然館本館体験学習室にて、指定管理者に係る合議を実施いたしました。その中で合議メンバーより以下のような意見が出されました。 1）止々呂美ふるさと自然館を体験利用して ①全体的に施設の清潔さは維持されていると思う。バリアフリートイレやウォシュレット等があればさらに良い。 ②特に水回りが綺麗であり、サイト区画が大きい。一方、遊具や芝生サイト、遊歩道などがあればよいと感じる。高速道路も開通したので施設として何か強くＰＲできるものがあればと感じる。 ③キャンプ場にＡＥＤについての案内を掲示していることで、利用者の安心に繋がるため好ましい。 ④サイトは芝生でも砂でもなく砂利が個人的に好みである。月に１回程度利用しているが、利用するうえでの不便は感じない。 上記のようなご指摘、評価を頂きました。 指定管理者からは、「バリアフリートイレはＡサイトに設置しています。ウォシュレットは現在設置していません。市との間でキャンプ場にアスレチックを設置することについて協議中です。芝生サイトについては、これまで試みてきた経緯がありますが、費用や芝の育成、野生動物の影響などにより実現していません。利用者によってサイトの好みも違うため、キャンプ場のエリアごとに特色をつける検討をしています。ハード面などの多大な費用がかかる改修は難しいですが、施設の清潔さ等は今後も維持していきたいと考えます。」 との回答をいたしました。 ２）アンケート・意見交換会の結果を踏まえて アンケート結果の概要及びアンケートに対する指定管理者の考えについて、指定管理者から説明を行い、合議メンバーからは以下の質問・意見が出されました。 ①冬季の割引はあるか。繁忙期はいつか。 ②ＨＰがわかりにくいとあるが、どういう風にわかりにくいのか。全体的に施設利用者は増えているか。 ③キャンプ場の利用料金は下げずに現状のままでよいと考える。 ④ターゲット層はどこを目指しているか。資料にあるイベント内容は何か。 上記のような質問等に対して指定管理者からの回答として、 「冬季割引は設けていません。ゴールデンウィークやシルバーウィークはここ数年間は予約がいっぱいです。お盆は以前は直前まで空いていましたが、２年前頃から予約がいっぱいです。週末に関してはネット上でのキャンセル待ちが多いときで７０～８０件あります。総じてキャンプ場利用客は増えています。 ＨＰについては、自然館とキャンプ場それぞれの案内があり、例えばキャンプ場にしか用事がない人には見づらいかもしれません。利用料金については一定の水準を保つことで、安心してキャンプを楽しんでもらいたいという理由もあります。他のキャンプ場にない強みとして、スタッフが利用客に付き添ってテントの建て方等をお教えすることができるところは、他にない強みだと思います。 スノーピークとしては、特にターゲット層というのはなく、全国のキャンプ場どなたでも歓迎いたします。イベントの内容は、雪峰祭というスノーピークが定期的に開催する感謝祭イベントや、地元の方々による竹細工教室を開催しています。」 との回答をいたしました。

	３）止々呂美ふるさと自然館の魅力、サービスの向上にむけて ①集客数のアップには平日の利用客も重要であると思う。キャンプ場は基本的に平日は空いているが、平日も盛んな関東のキャンプ場はある。 ②どこでも市の施設は衰退していると感じている。市は、このキャンプ場とあわせて豊かな自然環境や周辺施設をもっとＰＲしていくべき。それは指定管理者ではなく市が主導していくものであると思う。 ③止々呂美という古き良き田舎町があること、箕面森町と止々呂美という色合いの違うまちの融合による魅力など、市が PR していくべきと思う。最近は台風等が多いが、災害時のサバイバル能力というのは個人差が出るため、例えば高齢者にこの施設でキャンプ体験をしてもらうのもよいと思う。 以上のような合議メンバーからのご意見に対し、指定管理者からの回答として、 「スノーピークが今後も指定管理を続けていくには、収益の確保も重要であり、土日は頭打ち感があるので、平日イベントや団体様向けイベントなどをもっと考えるべきかもしれません。一方、これまでの経験では投資に応じて収益の確保が難しく、どちらかといえば、イベントを通じてキャンパーの数を増やすことで販売に繋げることを主眼に置いています。だからと言って収益がマイナスであることを良しとするわけではないため、日々悩んでいるところです。」 との回答をいたしました。 事務局からは、 「市と指定管理者、地元で話し合いを続けていますが、地域活性化に繋がる効果的な取り組みには至っていません。箕面森町と止々呂美との繋がりは重要であると考えており、市民への周知も一層図っていきたいです。 指定管理者の契約期間が残り少なくなってきており、指定管理者と今後のことをよく協議していきたいと考えています。」 と回答いたしました。 ４）総評 指定管理者としても、収益が求められる一方で地域の活性化や指定管理者としての使命感など、多くのバランスを取る必要性を認識しています。 市としましても、有識者、利用者が必要と考える施設および施設周辺のまちづくりについて、より効果的な情報発信が必要であると認識し、また、指定管理者の現状把握や意識共有など今後に繋げるためには重要なことが多くあると再認識しました。 指定管理者の施設運営については、特に費用を要する要望への対応が難しいものの、サービスやソフト面での努力を行っていることは窺い知ることができます。また、アンケート調査の満足度は高いですが、それに甘んじることなく、より魅力的な施設運営を目指していることについて、市として評価いたします。